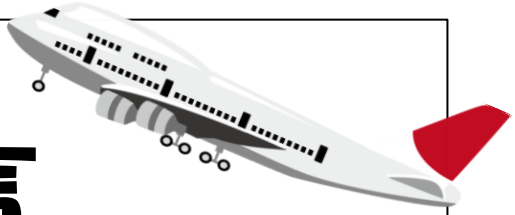
長崎市立滑石小学校　校長室だより　Ｎｏ84



今日の一言

６．２．１５　校長　渕上　卓也

大号泣　もらい涙

先週金曜日の放課後のことです。校長室横の階段がざわざわしているな・・・と思っていると、しばらくしてものすごく大きな泣き声が聞こえてきて、心配になり現場へ駆けつけました。私以外にも駆けつけた先生方が！！泣き声現場には、「別れたくないよ。」「寂しいよ。」「悲しすぎるよ。」・・・と大号泣しながら抱き合っている３年１組の子どもたちがいました。

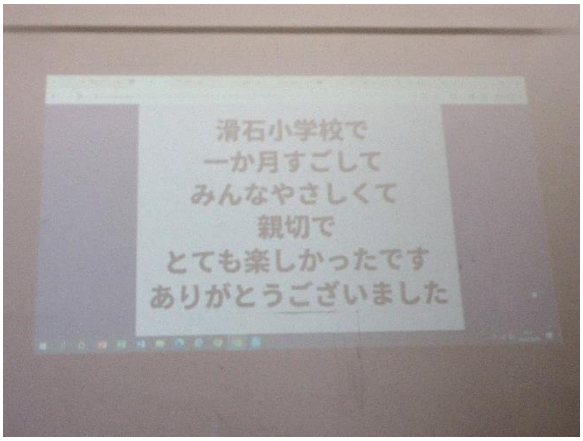
３学期の始業式の日、滑石小学校に一人の体験入学のお友だちがやってきました。ドイツの日本人学校に通う３年生の女の子です。ずっと海外で暮らしていたので、日本国内の学校に通うのは初めてとのこと。一時帰国の期間に、お母さんの母校である滑石小学校にやって来たのです。交流先が３年１組さんでした。

最初は戸惑いもあったと思いますが、とても明るくて元気いっぱいの子なので、すぐに３年１組さんに溶け込んでいました。ずっと一緒に過ごしてきた気心の知れた仲間のようでしたよ。登校時のあいさつも毎朝元気いっぱいで、「校長先生、おはようございます！！」と笑顔で私に届けてくれました。

全校集会では、日本とドイツとの学校や暮らしぶりの違いについて話をしてくれました。いろいろと教えてくれて、異文化理解が深まった滑石っ子たちです。私的に一番驚いたのは、町中のみんなが「静かに過ごさなければならない時間」があることです。滑石小導入を検討してみます。

１か月という期間もあっという間。大号泣の場面は、最後のお別れの場面だったのです。子どもってすごいです。誰でも受け入れて、すぐにつながることができるのですから・・・。滑石小学校で、新しくできた友だちと過ごした時間は、一生の思い出となったことでしょう。もちろん滑石っ子にとっても！！

大号泣の場からそっと離れて校長室へ戻り、もらい泣きをしてしまった渕上でした。



＜今日の一句＞

離れても
どこにいようとも
滑石っ子　卓也